

道徳の時間で活用する ～思いやり、感謝～

岩国市立平田中学校 河辺 哲也

1 本場面におけるポイント

- 「事実に対する具体的な行動の背後に、人間の道徳性は表れる。」という考え方を、この授業の柱とする。
- 立場や状況に応じて、思いやりの在り方は異なり、多様な考え方があるということを生徒に実感させる。
- 気持ち主義から脱皮し、生徒の認識を引き出すために、「もし自分だったらどのような行動をとるか。」という発問を行い、生徒の認識を引き出す。

2 授業の実際

1 主題名 思いやりの心

「資料名 フィンガーボール（出典『4年生の道徳』文溪堂）」

2 ねらい

女性客の失敗と女王様の対応を「私」の視点から考えることを通して、立場や状況に応じた言動に気付くことができる。

3 展開

(1) 導入 「フィンガーボール」の意味と使い方を知る。

(2) 展開

○資料を読んで、感じたことを発表するとともに、二人の行動について考える。

「女性客への同情」や「女王様の行動」について、多くの生徒が触れるだろう。

【生徒の反応】生徒の反応は、大きく二つに分かれた。

- ① 女性客は、「フィンガーボール」の使い方を知らず、かわいそうだ。
自分もこの道具の使い方を知らなかったなので、その場にいたら飲んだだろう。
- ② 女王様が飲んだのは、すごいことだと思う。

【行動の吟味】

女性客も女王様も「飲む」という行動は同じだが、考えは同じかどうか確かめよう。

【生徒全員で考えを共有できたこと】

女性客の「飲む」は、「フィンガーボール」の使い方を知らないために「飲む」という行動になった。でも、女王様の「飲む」は、女性客に恥をかかせたくないという考えからとった行動だ。だから、同じ行動でも意味が違う。

○その状況に自分を置いて考える。

(2)のことを踏まえて、以下のような発問を行った。

あなたは女性客と女王様と同じテーブルにいます。この二人の様子を見たら、あなたはどのような行動をとりますか。

ただし、あなたは「フィンガーボール」の使い方を知っているものとします。

生徒は、この状況に置かれたとき、自分はどうな行動をとるか悩みながらも、自分の考えを書いた(写真①)。また、書いたあと、自分の考えを変えないことを約束して、他の友達と情報交換を行わせた。その後、発表させた(写真②)。発表を聞きながら、教師が以下のように発言を整理した。

ア 飲む

- ・女王様に恥をかかせたくないから。
- ・その場の雰囲気壊したくないから。

イ 手を洗う

- ・さりげなく手を洗うことで、女性客に教えたいから。
- ・今、教えないと、ずっと間違っただま生活することになるから。

ウ 使わない

- ・「フィンガーボール」を使わないことで、女性客と女王様のできごとにしたいたいから。そっとしておきたい。

(3) 終末 まとめ～「私たちの道徳」の活用～

生徒は、人によって行動が異なり、「思いやり」と言っても多様な捉え方があることに大変驚いていた。また、「私たちの道徳」(P55～56)の『『思いやり』ってなんだろう?』を活用しながら、相手との関係や場の雰囲気、状況に応じて「思いやり」の在り方は形を変えることを教師が語った。最後に、P56の欄に、今日の授業を振り返って考えさせられたことや心に残った友だちの意見について書かせた。



<写真①>



<写真②>

3 実践を振り返って

この授業は、道徳の校内研修の一環として実施した。また、授業を見ていただくとともに、本校の生徒の考え方や感じ方等を知ってもらうために、11名の地域の方(学校運営協議会委員)に授業及び研究協議に参加してもらった。

「自信がなさそうな生徒に先生がよく寄り添い、挙手等で自己表現をさせていたところがよい。」「自分のとる行動に対する理由をもっと明確にもたせるとよい。」等の意見をいただき、道徳の授業改善の視点を得ることができた。今後も、「私たちの道徳」を有効に活用し道徳を通して、教室と家庭・地域とをつないでいきたい。